

先に綴った表題で書き増したいことの続々編として、学校制の特色、スーパーマーケットの種類、名物電車など数点を取り上げてみたいと思う。

＝ドイツの保育園、幼稚園、学童期、高校＝

保育園と幼稚園は、有料で所得により料金が異なるのが特色で、どこかにか入れる。

学童期で小学校の新学期は、夏休み直後にスタート。学齢 6 歳の区分けは 7 月 1 日から翌年 6 月 30 日で、夏・冬休みとも宿題・登校日がなく、家庭や友達と楽しむ多くの時間をとる。

小学校入学時は、保育費が別料金の有料（所得により料金が異なる）で、州毎に異なる 4 年制または 6 年制の学童期を経過すると、各々が大学進学是非の進路を決めた他の全日制（学費は無料、教科書は有料）への学校へ入学し、そこで 9 年制（日本での小学から高校を終えるまでの総年数 12 年は少数で 13 年が主）の在籍を経て、以降大学進学は大学生となる制度が確立している。

なお、学校は、基本的に公立が大半で、私立は少数（キリスト系の英独バイリンガルが有名）である。

＝ドイツの大学＝

第一の特色は、卒業がないために卒業証書がない。また、在学年限もないので何年在学しても OK で、学年は、夏学期（4 月入学）と冬学期（10 月入学）の 2 学期制に分かれ、学期毎に登録料がかかり、州によっては定期代も入っていて、夏学期を一学期だけ在学して、大学を休学してもいいし、20 年間 10 学期在学していてもよく、それは学生各人が自分で決める。

第二の特色は、建前は型のごとき試験施行があるが、学期試験、学年試験が一切ない。

第三の特色は、高等中学校の最終学年で所定の試験に合格していれば、また日本の高校卒業生がドイツの大学に入るには、外国で日本の高校卒業生が入学できる大学に 1 年以上在籍する（ドイツの方が大学入学までの教育期間が 1 年長い）ため）必要があり、これを経て各大学が実施するドイツ語の試験に合格すれば、入学試験はなく、誰でも無試験で入学でき、学費は原則無料である。

第四の特色は、夏学期は入学した大学で、冬学期は他の大学へ移って学ぶことができる転学権があり、学生は大学を自由に選択できるという、幅広く勉強と研究を重ねる精神でもって、自分を切磋琢磨するところである。

第五の特色は、歴史の古い大学の本部や旧来の校舎は市内のあちこちに散在しており、外から見ただけでは一般の建物と区別がつかない、いわゆるキャンパスなるものは多く存在しない。

＝ドイツのスーパーマーケットいろいろ＝

フランクフルトの街で見かける「スーパーマーケット」〔※1〕は、規模大小の総合食品類を扱う 3 大ストアなる「REWE」、「ALDI」、「LIDL」、BIO 商品を扱う「ALNATURA」、化粧品、日用雑貨のみで生鮮食品類は扱わない「dm」はなどがある。（「ALDI」、「LIDL」はディスカウントスーパー）

スーパーマーケットは、2 ドア、1 ドアでも入出を区分し、単棟独立形で駐車スペースに空きペットボトルなどの持ち込みで換金可のコーナーを備えるストア、店内に「デリカットエッセン」のコーナー（パン類、チーズ、ハム、ソーセージ、生肉類）、セルフのお惣菜、果物・野菜類、パン類、真空パック入りのチーズ・ハム・ソーセージ・冷蔵・冷凍食品（サランラップ包みの精肉類

は無し)、各種飲料品などが整然と並び、購入したものは、手持ちまたは手引きの買い物カゴに入れて左右どちらか出口側のレジコーナー（ベルトコンベアー上に品物を置く）で価格表示モノ、秤モノが計算される仕組みである。（以前、秤モノの食材は、その場に備え付けの秤に乗せて各自で目方を量り、表示される価格を貼付した）



「ALDI」の店構え



野菜、果物のコーナー



紙パック入り冷蔵生食品の陳列コーナー



ジュース類、冷蔵野菜、お惣菜などのコーナー



冷凍食品のコーナー



ベルトコンベアー上に品物を置いたレジの様子

また、日本食品類や韓国、ベトナムの食品を扱う「アジアマーケット」に足跡に通う人も多く、一方、ハム、ソーセージ、精肉、チーズ、ジャム、サンドイッチ、ワイン、魚類、お惣菜などを扱う「デリカットエッセンス店」〔※2〕は、数は少ないが、店構えに趣向を凝らしていて、買い物を楽しむオーダー客が多い。

その他店内にカフェを備えてサンドイッチ、パン類、アイスクリームを扱うストアや果物・野菜類、ワイン類のみのストア、健康食品のストアなどがあり、サンドイッチ、パン類、アイスクリームはテイクアウトする人も良く見かける。



アジアマーケットの店構え



デリカットエッセンの店構え



店内陳列の様子



店内の様子

〔※1〕スーパーマーケットの大義

スーパーマーケット（英: supermarket, SM）は、高頻度に消費される食料品や日用品などをセルフサービスで短時間に買えるようにした小売業態である。

スーパーマーケットの名称は、英語で「市場（いちば）」を意味する“マーケット”に、「超える」という意味の“スーパー”を合成し、「伝統的な市場を超えるほどの商店」の意で作られた造語であるが、スーパーマーケットの事業が拡大するうちにひとつの名詞となった。特定の品目を専門的に扱うのではなく、幅広い品目の商品を取り揃えることが通例であり、狭義では食料品や日用品販売主体のものを指すが、日本では総合スーパー、食品スーパー、衣料スーパーというように、セルフサービスの総合店を指している場合が多く、ディスカウントストアもこの類に入る。

〔※2〕デリカットエッセンスストアで扱われる食品

デリカットエッセンスストアで扱われる食品はハム、ソーセージ、チーズ、パン、オリーブ、サラダ、魚介類、お惣菜などが主で、秤売りであることが多い。デパートやスーパーマーケット内部のデリコーナーである場合と、独立した商店である場合がある。アメリカ合衆国では独立したデリはソフトドリンク、低アルコール飲料（ビール等）、生活雑貨等も取り扱っており、コンビニエンスストアの役割も果たしている。注文に応じてサンドイッチを作ってくれる店舗が多く、店舗内に飲食設備を設けて、ファスト・フード店、または、カジュアルレストランとなっているところも多い。高級なデリカテッセンでは、ワイン、パテ、キャビア、フォアグラなどグルメ食品なども扱い、ヨーロッパではむしろグルメ食品店として機能している。カナダとオーストラリアではアメリカ風とヨーロッパ風両方のデリカットエッセンスが見られるようである。

＝屋外に仮設のマーケット＝

屋外に設営のマーケット（駅前のトラム軌道敷を挟んだ両側の空き地利用、教会の広場利用の市場）があり、期間限定、週ウイークデイ限定で、仮設のにわか屋台や可動車屋台で、規模は小さいが多彩な生鮮食料品の他パン類を出店していて、多くの買い物客が押し寄せて賑わう。



トラム軌道敷と市場



教会広場に設営の市場



新鮮な果物、野菜類



ソーセージ類の燻製と瓶入りの食材コーナー



デリカットエッセンのコーナー



秤り売りの多彩な美味しいお菓子類

（品豊富なドイツのお菓子は WEV 検索どうぞ）

＝ドイツのクリスマスマーケット＝

ヨーロッパでは大事なイベントである「クリスマス」。11月末～12月のクリスマスイブまで開催される「クリスマスマーケット」は、ドイツが発祥と言われ、ドイツ国内には150ものクリスマスマーケットが存在すると云われる。

フランクフルトの旧市街地「広場レーマベルク」は、旅行者が必ず足を運ぶ場所で、ここで聖なるクリスマスを祝う4週間前からクリスマスツリーやイルミネーションで輝く、クリスマスマーケ

ット（趣向を凝らした露店が並ぶ）もにぎやかで、ドイツの文豪「ゲーテ」も楽しんだと言われる最古のマーケットの一つで、1393年にスタートし、現代的な商業都市の中に広がる絵本のような中世の世界を醸し出し、ロマンチックな気分にあふれること間違いなし。地元の貴婦人がやや太めの「フランクフルトソーセージ〔※3〕」を取り皿に盛って立ち食いでばくつき、「グリュウワイン〔※4〕」を飲む人間模様、陶器の大型マグカップで飲む「アップルワイン」（後述）のメッカとしても有名で、クリスマスに食べるお菓子の定番「シュトレン〔※5〕」や「レープクーヘン〔※6〕」、ミニチュアの人形の家「クリッペ〔※7〕」は欠かせない。



「広場レーマベルク」クリスマス市の風景



クリスマスのお飾りコーナーと屋根上のサンタ

〔※3〕 ソーセージ

- ・ウイナーソーセージ = 羊の腸を使ったもの<直径20mm未満>で、オーストリアのウィーンに由来。
- ・フランクフルトソーセージ = 豚の腸を使ったもの<直径20~36mm未満>で、ドイツのフランクフルトに由来。
- ・ボローニアソーセージ = 牛の腸を使ったもの<直径36mm以上>で、イタリアのボローニアに由来。

〔※4〕 グリュウワイン

赤ワインにオレンジピールやシナモン、クローブなどの香辛料、砂糖やシロップを加え温めて作るホットカクテルの一種で白ワイン由来のものも存在し、支払はカップ代込みで、飲んで返却するとカップ代は戻入される。

〔※5〕 シュトレン

レーズンやレモンピール、ナッツなどが入ったしっとりとしたケーキに、白い粉砂糖をかけたもの。ドイツではショートケーキではなく、この「シュトレン」をクリスマスに食べる。

〔※6〕 レープクーヘン

蜂蜜や香辛料、オレンジ・レモンの皮やナッツを使ったクッキーが「レープクーヘン」で、クリスマスに飾ることで有名。

〔※7〕 クリッペ

よく見かける、キリストやマリアなどのミニチュアの人形の家。これは「クリッペ」と呼ばれる、キリストの生誕シーンをあらわしたもの。中には等身大のものもある。

なお、ドイツ3大マーケットと言え、**「世界一有名なニュルンベルク」**、**「世界最大のシュトゥットガルト」**、**「世界最古のドレスデン」**が3大クリスマスマーケットとして名高い。

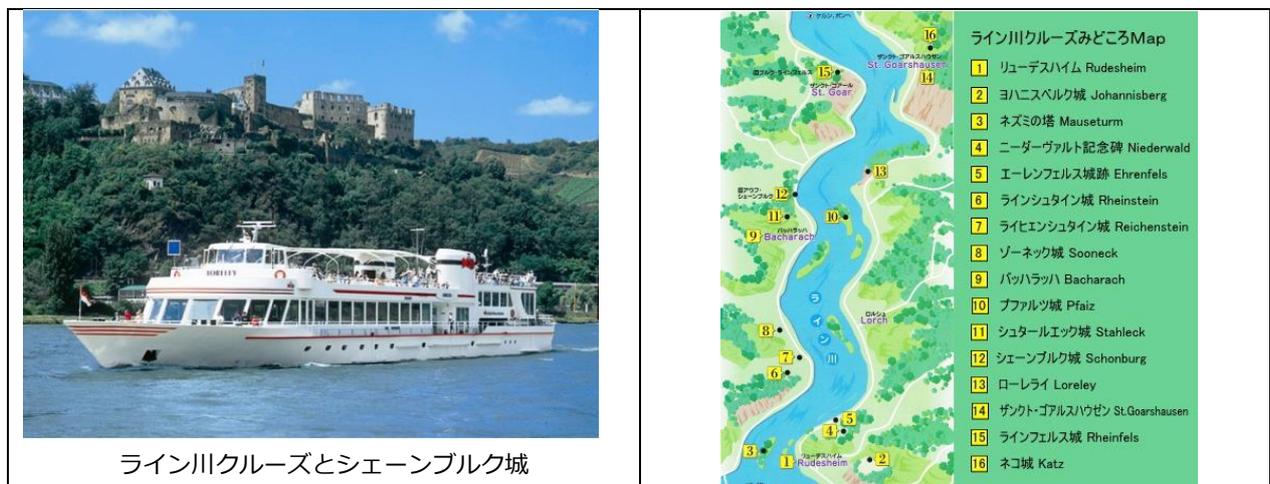
＝ライン川クルーズのこと＝

<ラインクルーズの拠点リュースハイム>

ライン川クルーズに触れると、マインツ～コブレンツ間（世界遺産に指定されロマンティック・ラインと呼ばれている＝中世以来の景観が残され、世界遺産にも登録され、約 65km に 30 か所以上の古城や城跡が見られる）の中でも、特に人気がある区間がリュースハイム～ザンクト・ゴアールの中流域。逸話に彩られた古城が次々に現れ、伝説のローレイの岩もこの区間にあり、ライン川観光の重要な拠点。ライン川北岸に広がるラインガウ地方の中心都市がリュースハイム、対岸がビンゲンである。

また、ドイツ有数の白ワインの産地（ラインガウ）として知られ、ブドウ畑とワイン酒場が軒を連ねるドロセルガッセ(150mほどの狭い通り「つぐみ横丁」)が有名な町で、リュースハイムで乗船前、あるいは下船後に、ワイン酒場めぐりが楽しめる。

このようにライン川クルーズは、マインツまたはリュースハイムやビンゲンで乗船し、コブレンツまでの区間がゴールデンコースと謳われる。



<一般的な旅程>

- ・フランクフルト中央駅からビンゲン・シュタットまで 11,20€。
- ・ザンクト・ゴアルスハウゼンからリュースハイムは 19€。
- ・リュースハイムからフランクフルトまで 4,35€。

*フランクフルト中央駅からリュースハイムまで列車で移動。

↓↓

*リュースハイムを散策してからライン下りの船に乗船しザンクト・ゴアール(St.Goar)で下船。

↓↓

*ザンクト・ゴアールの町を散策。時間と天候によりにより廃墟のラインフェルス城からのラインの眺めを楽しむ。

↓↓

*ザンクト・ゴアールからマインツ方向へ 2 つ戻ったバッハラッハ(Bacharach)へ。木組みの町並みとブドウ畑、シェーンブルク城とそこからの眺めを楽しんで、フランクフルトへ戻るコースを取る。

↓↓

*リュースハイムで夕食とワインを楽しんでフランクフルトへ戻るならこの逆コースで回る。

＝ドイツの三大美城＝

<エルツ城>

ドイツ西部ライン川のほとり、支流に当たるモーゼル川のさらに支流、エルツ川の川岸の崖に、とてもドイツらしい美しいデザインの一度も陥落したことがないお城が「エルツ城」(12世紀建造)でドイツの美城3本の指に入ると云われ、ユーロが導入される前の最高額紙幣500マルク札にデザインされた城としても知られている。

<ホーエンツォレルン城>

ドイツ南西部の片田舎にあり、シュトゥットガルトから南におよそ60kmほどの、標高855mの小さな円錐状の山の頂上に、何度も破壊され、再建を繰り返してきた絵に描いたように美しいお城がホーエンツォレルン城(19世紀建造)で、“天空の城”とも言われている。

<ノイシュヴァンシュタイン城>

ドイツ南部ロマンチック街道のハイライト、アルプスを背景にした山に聳え立つその姿は、まるでおとぎ話の挿絵のようだと称される美しい白亜の城がノイシュヴァンシュタイン城(19世紀建造)で、ディズニーランドのシンデレラ城のモデルとされた人気NO1のお城で、交通の利便が良いためツアー客が世界中から訪れる。



エルツ城



ホーエンツォレルン城



ノイシュヴァンシュタイン城

＝アップルワインと観光電車＝

ドイツと言えば白ワインが主流であるが、フランクフルトの近く、メイン川の南側にあるザクセンハウゼンではアップルワイン(アルコール度数8度ぐらいで、ボスマン社の銘柄が多い)も有名で、これが飲めるレストランに入り、夕食時には、グループ毎に大きなテーブル着席で、大人はビヤールピッチャーならぬベンベルという陶器の入れ物でアップルワインを注文(約10€)しグラスへ注ぎ、シュニッツェルにパセリなどを使ったグリーンソースがかかったグリュネソーセ、サラダ、ポテト、ソーセージなどを大皿に盛って、夏期の夜長をゆっくりと食事する人も多く見かける。

アップルワイン普及のルーツは、19世紀半ば、ヨーロッパ全域にブドウの害虫被害が広がった際、ワインの代用品として、安価なドリンクのアップルワインが大活躍したことに由来する。

また週末になると、観光アップルワイン電車(名物トラム1~3両編成、巡回約1時間)が運行されて、和気あいあい備え付けの簡易テーブルを囲んで、アップルワインを飲んでフランクフルトの街中を走り抜ける熱気の中、程よい揺れでワーワーガヤガヤのほろ酔い談笑、小瓶1本と、本場のプレッツェルがついてわずか6€のチケットで、気ままに電車内でも飲んで利用客が多い。



カツレツ風の名物「シュニツェル」



ドイツパン「プレッツェル」



陶器の入れ物「バンベル」



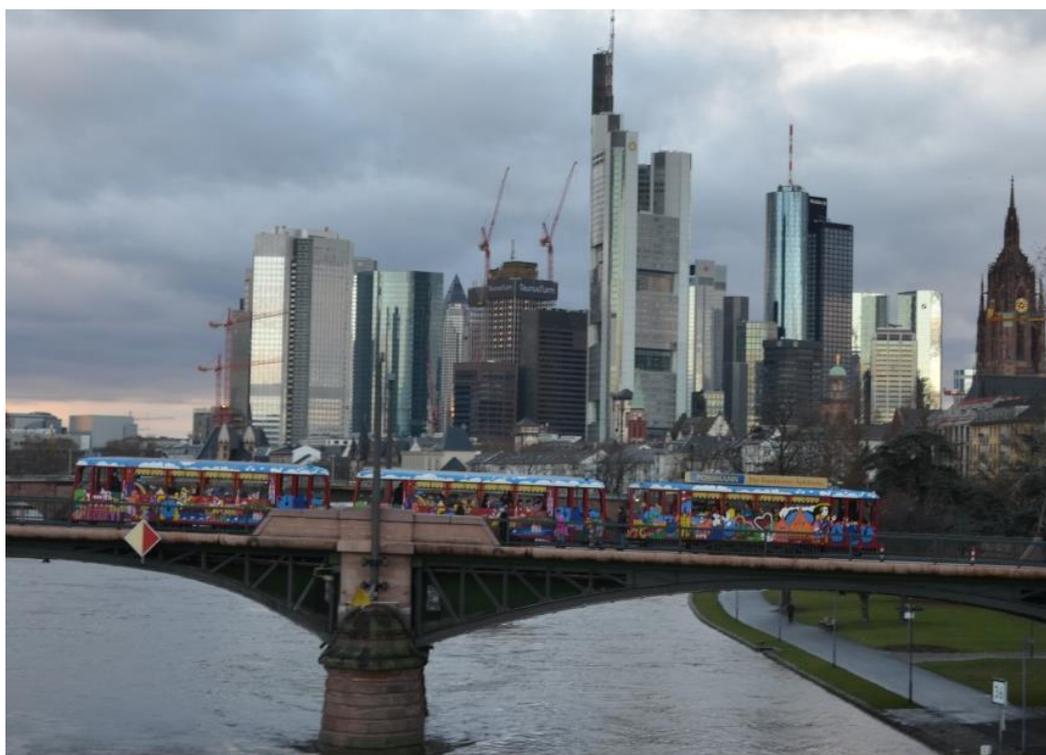
アップルワイン



リンゴワインが飲める歴史あるレストラン
(奥まったところにテラス席があり利用客が見える)



名物の観光アップルワイン電車



メイン川を渡る名物電車

フランクフルトの名物「アップルワイン電車」は、見かけるだけでも楽しいマスコットの存在である。了

2016年10月